

天水中校区 学校再編準備説明会

項 目		回 答	説明会
1 説明会	① 参加者が少ない。	・PTA総会や各会合で事前にお話ししていただければ伺う。	9/29 玉水小
		・天水地区は防災無線を多少多めに流しても支障ないとのことなので、説明会を開くときは数回防災無線を流すよう予定したい。	9/30 小天小
		・今後も小学校のPTA、就学前の保護者、地域の方々とも意見交換会を行っていきたい。	10/2 小天東小
	② 時間の設定について	・保護者の方への説明会をするときには、PTA会長や役員の皆さんにご相談し、学校と連絡を取り合って日程を決めたい。	9/29 玉水小
	③ 事前の資料送付について	・いろいろな会合で連絡もらえればいつでも喜んで伺う。その際に資料の部数を教えていただければ、事前に届ける。	9/30 小天小
④ 文科省の資料がデメリットしかないので、メリットの資料もほしい。	・「学校規模・配置適正化計画」の素案を策定するときに、小規模校のメリット・デメリット、大規模校のメリット・デメリットをまとめたので、その資料を次回用意する。	9/30 小天小	
⑤ 玉陵中校区では説明会は何回ぐらいされたのか。	・平成24年10月に「学校規模・配置適正化計画」が策定されてから、6小学校あるので、その小学校区ごと説明会を行った。その他ご要望のある会合等で行った。平成25年には各区の区長に相談して、基本的には行政区単位、公民館単位で説明会を行っている。玉名小校区では体育館で1回、梅林小校区では8つ公民館があるので8回、三ツ川小校区では3回、月瀬小校区では3回、石貫小校区では体育館で1回、小田小校区でも1回行った。	10/2 小天東小	
2 学校規模・配置適正化計画	① 学校再編スケジュールの順番は。	・早急な対応が必要な校区として、複式学級が多いところを優先的に進めようということで、玉陵中校区を1番にした。	9/29 玉水小
	② 中学校の合併はあるのか。	・「学校規模・配置適正化計画」は平成24年～33年度までのスケジュール。まずは小学校の再編を進めて、6中学校区終わった段階で中学校の再編を検討していくと考えているが、現在の所は白紙の状態。	9/29 玉水小

天水中校区 学校再編準備説明会

項 目	回 答	説明会
③ 分校というのはどういう形か。	・分校は法律の規定がある。分校になると体育や音楽がやりづらい。熊本県下では、ほとんど1, 2年生まで分校で勉強し、3年生から本校に通うシステムになっている。	9/30 小天小
④ 学級の定数について。	・学級の定義は40人目安。県では1~2年35人学級、国では1年生が35人学級。玉名市では、4年生まで35人学級になっている。	10/19 部田見区
⑤ 進める目的は。	・平成24年の「学校規模・配置適正化計画」は子どもたちの教育を見据えた中で、どのくらいの規模がいいのかという視点に立っている。そして、この計画では、子どもたちの教育環境を考えたうえで、1学年2~3クラス、複数の学級があった方が子どもたちの育ち、教育にはよいと考えている。また、老朽化の進んでいる校舎、体育館、施設が多いので、この辺りをどういう風にとらえるかというのも大きな視点。	10/19 部田見区
⑥ 校区の見直しも1つの方法ではないか。	通学区域の見直しは適宜行っている。	10/19 部田見区
⑦ 施設の建替えの基準は。	・60年もたせるためには、概ね25年~30年たつと大規模改修、防水工事等を中心に改修工事を行う。改めて出された文科省の方針では、75年もたせるためには大規模改修を2回行うこととなっている。	9/29 玉水小
天水中校区学 3校再編について	① 建設場所は決まっているのか。 ・地域の合意形成が得られれば、基本構想を作成しその中で決定していきたい。 ・今適切な場所に市の土地もないので、「どこ」というのは白紙。ただ教育委員会としては2つの方向性をもっている。1つは、小中学校が同じ敷地にあればより教育的効果が上がるという考え方。しかし、用地の問題・立地の問題もあるので、小中別々という選択もある。	9/29 玉水小 9/30 小天小

項	目	回 答	説明会
	② 既存の学校の改修で済むのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会としては、補修維持していくのではなく、3小を統合してクラス編成ができ、教職員の先生に多く配置していただいて（専科の先生にも見ていただけるように）子どもたちのためによりよい環境を整えたいと思っている。</li> </ul>	9/29 玉水小
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな意見がある中皆さんと意見交換をしたい。候補地として既存の学校を除外しているつもりはない。</li> </ul>	9/30 小天小
	③ 子どもたちに話すタイミングは。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに教育委員会が話しても理解してもらえないと思うので、保護者から話してもらえたらと思う。</li> <li>・私たち大人が子どもたちの将来を考えて、どうしたらいいのか考えていかなければいけないという方向で、家族の中で話題にしてほしい。一方的にどちらか偏ることなく話してもらえればと思う。</li> </ul>	9/29 玉水小
	④ まず小天と小天東の統合があると聞いたが。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会の方針としては、平成24年に「学校規模・配置適正化計画」にスケジュール等を示しているとおりの。</li> </ul>	9/29 玉水小
	3校一緒ではなく、小天と小天東、それから玉水と様子をみながら進めたらどうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市全体で「学校規模・配置適正化計画」を策定するときに、十分検討した結果。</li> <li>・玉陵中校区の例では、複式学級の有する学校が月瀬小と三ツ川小とある。保護者の方々から、まず2校を再編して様子をみて数年後再編するというご意見も一部ではあったが、子どもたちの負担感や平成30年の開校に間に合うようであれば6校一緒にという意見が多かった。</li> </ul>	9/30 小天小
	3小が一緒になることは決まっているのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育委員会としては、示しているスケジュールが最も教育効果を上げることができると思っている。</li> </ul>	9/29 玉水小
	⑥ 小中同一敷地内ならば、体育館、プールは小中一緒か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玉陵中校区の例では、小学校専用の体育館・プールを建設する。</li> </ul>	9/30 小天小

項	目	回 答	説明会
	<p>⑦ リミットはあるのか。</p> <p>スケジュールが伸びることのデメリットは。</p>	<p>・平成32年4月を目指すスケジュールは、教育委員会として示しているスケジュール。地域の大方の合意が得られればこの通りに進めたい。</p> <p>・教育委員会がより良い理想と考えている教育的効果を受ける子どもが遅くなること。</p>	<p>9/30 小天小</p> <p>9/30 小天小</p>
	<p>⑧ 小さい学校でも教育の方法があるのでは。</p>	<p>・ある程度豊かな人間関係が保てる学校をつくりたい。</p>	<p>10/2 小天東小</p>
	<p>⑨ 少人数から1クラス30人のクラスになると先生方が無理をするのではないか。</p>	<p>・少ない人数と、30人～35人では大変さは違うが、小天東小の例でいうと、3人の担任の先生に校長、教頭、養護の先生。学校運営面では大きい学校も小さい学校もやることは同じなので、少ない人数の先生だけでは大変な思いをされていると思う。</p>	<p>10/19 部田見区</p>
	<p>人数が多くなると、いじめや不登校が多くなるのは。</p>	<p>・不登校やいじめについては、現在も防止を考えている。人数が多くなれば不登校やいじめが少なくなるという確証はないが、それを防ぐための組織の人数が増えたり、子どもたちも多くの人たちに出会えるので、そういう人たちに助けられたりということもある。</p>	<p>10/19 部田見区</p>
	<p>⑩ 新しい学校が建ったとしたら、他の学校はどうするのか。管理や経費はどうなるのか。</p>	<p>・新しい学校づくり委員会の保存継承跡地利用部会で検討していくが、市として、今まで通りずっと使用するというのは維持管理の面で無理かと思うが、できる限り避難場所の確保など含めて跡地の利用について考えていく。ただし、あくまで地域の方々が基本的に管理していくことになる。</p> <p>・本当に必要な部分だけを残して、地域で管理できるような形で話し合いを進めていく。</p> <p>・玉陵中校区の例では、今話し合いの段階だが、十分ではないかもしれないが、何年かは市から管理費を出すということも含めて話し合いを進めている。</p>	<p>10/19 部田見区</p>

天水中校区 学校再編準備説明会

項 目		回 答	説明会
	⑪ スクールバスについて。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 玉陵中校区の例ではPTA通学部会でスクールバスの使用や停留所の箇所など検討してもらっている。スクールバスの導入については保護者負担は無料で検討中。</li> <li>・ スクールバスの乗員は新しい学校づくり委員会での決めようだと思う。基本的には中学生は体力確保の観点から自転車で、小学生は距離や校区で決めることになると思う。</li> <li>・ スクールバスの帰りは3回程度運行予定。低学年、高学年、部活の時間を考えている。</li> </ul>	9/29 玉水小
4 新しい学校づくり委員会	① 委員の変更について。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PTAの方々に頼むときは再編が終わるまで続けていただきたいが、実質的に難しい時は、役員交代の時に引継ぎを十分に行っていただきたい。</li> </ul>	9/29 玉水小 9/30 小天小
	② 玉陵中校区「新しい学校づくり委員会」の保存継承・跡地利用部会は何回会合を開いたのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今まで5回。現在再編後の跡地利用計画を策定中。また独自の行事をどうするかも検討している。6小学校区とも体育館とグラウンドを使いたいと要望があがっているので、維持管理について検討している。3回目の部会には先進地研修にも行った。</li> </ul>	9/29 玉水小
	③ 結果報告や住民説明会の予定は。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 玉陵中校区の例では、「新しい学校づくり委員会」で決まった結果は教育委員会でまとめて、定期的に玉陵中校区あるいは全世帯にチラシを配布する。</li> </ul>	9/29 玉水小
	④ 組織にPTAと書いてあるが、保育園の役員にしてもらった方がよいのでは。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 天水中校区で、幼稚園・保育園の保護者にも入ってほしいという要望があれば、組織作りは地域の実情に合わせるのは当然のことなので、話し合いながら検討していく。</li> </ul>	9/30 小天小
6 小中一貫について	① 取組みは。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小中一貫教育は昨年度から始まっている。中学校区を1つと考えて、義務教育9年間を通して子どもたちの育ちを見守るという考え方。</li> </ul>	9/29 玉水小

項	目	回 答	説明会
	② メリットは。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育は離れている学校同士でも可能で、今玉名市では中学校区で行っている。小中一貫校を作れば、さらにプラスに働くことは文科省のデータにはっきり出ている。</li> <li>・小中一貫校になることで、先生方の交流ができ、中学校の専科の先生が足りなければ、小学校の先生で免許を持っている先生に教えてもらうこともできるし、小学校の英語活動に中学校の英語の先生に手伝っていただくこともできるようになる。</li> <li>・いじめ、不登校、(暴力行為の)加害者になる子どもの増加の割合は、小6から中1に上がるときにぐんと上がる。そうならないためにも小中一貫校で小学・中学の先生が子どもたちの育ちを見守り、連続・連携した教育を行いたい。</li> </ul>	9/29 玉水小
その他	① 小学校は地域の核。小学校がなくなれば地域が活性化しなくなる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家から通える職場、定住化など教育委員会だけでは解決できない。行政全体で考えていかなければならない課題。</li> </ul>	10/2 小天東小
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活性化策は大きな問題で全国的な問題。今地域創生ということが叫ばれており、玉名市でも本部をつくり市全体で考えている。</li> </ul>	10/19 部田見区
	② 中学校辺りは一番低い。避難場所として機能するのか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建設時に地を盛ることも考えることが必要。各小学校が避難所となっていることは十分承知している。今後考えていきたい。</li> </ul>	10/19 部田見区